

■■■ 福祉社会学会ニューズレター第48号 ■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.48

<http://jws-assoc.jp/>
E-mail: ws@univcoop.or.jp

***** INDEX *****

- 事務局からのお知らせとお願い
- 大会関係
- 2017年度活動方針
- 第8期福祉社会学会役員等一覧
- 会長挨拶
- 第4回福祉社会学会賞 選考結果
- 第16回大会のお知らせ
- 『福祉社会学研究』第14号刊行と第15号の投稿募集
- 理事会報告
- 新入会員紹介

■事務局からのお知らせとお願い

●5月大会総会にて新役員構成が承認されました。これを受けて、学会事務局所在地が以下のように変更になりましたのでご注意ください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 780 名古屋大学環境学研究科 上村泰裕研究室

●本年6月1日より、学会事務委託先が大学生協・学会支援センターから、毎日学術フォーラムに変更となっております。

住所変更やEmail のアドレスを変更された場合は、毎日学術フォーラム・福祉社会学会係宛 (maf-ws@mynavi.jp) までお知らせください。年度末に毎回十数通の不着が発生します。周辺でNewsletterを受信できていない方がいる場合は学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

■大会関係

【第15回大会】 第15回福祉社会学会大会が、去る2017年5月27日・28日に日本社会事業大学にて開催されました。参加者は112名でした。

【総会報告】 大会初日の午前中に理事会(新旧合同)が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2日目午後に総会が開催されました。総会の開始にあたり藤村正之会長の挨拶がなされ、引き続き大岡頼光会員(中京大学)が議長に選出され、大岡議長の進行のもと報告と審議が行われました。

●報告事項・審議事項

1. 庶務・事務局：高野庶務理事・事務局長より、学会の現況について以下の報告があった。(1)2017年5月28日現在の会員数は475名である。(2)ニューズレター第48号を大会終了後発行する。
2. 研究委員会：稲葉研究委員長より以下が報告された。(1)15回大会の報告申込数は、自由報告19、テーマセッション報告3の合計22件であった。大会参加費等事前振込件数は75件であった。(2)テーマセッションについて、今回の大会から、テーマセッションを従来の自主企画型、公募型に加えて、非会員の

参加を含めた拡大セッションを新設した。大会シンポジウムについて、今期はすべて大会開催校との共催とし、第14回大会は井口大会委員長・森川委員が、第15回大会は室田委員・菊池大会委員長が中心となって企画した。(3) 2016年度は2回研究会を開催した。(4) 今後の課題として、予稿集のオンライン化があげられる。

3. 編集委員会：高野編集委員長より以下が報告された。(1)『福祉社会学研究』14号が刊行された。(2)『福祉社会学研究』第15号の刊行方針を定め、執筆要領の修正などを行った。(3)自由投稿論文の投稿本数が減少したものの、昨年大会のテーマセッションをもとに論文公募を行った「公募特集」は、大会報告と機関誌をつなぐ新たな試みであった。(4)電子ジャーナル化について次期委員会での検討課題として引継ぎたい。

4. 社会政策関連学会協議会：三重野担当理事より以下が報告された。(1)2016年度には協議会が3回開催された。(2)2017年5月20日にシンポジウム(『地域の魅力を考える一仕事と暮らしを支える社会政策とは』)を行った。2017年6月24日には院生を対象としたシンポジウム(『経験者が語る修士論文完成まで』)が行われる予定である。

5. 2016年度決算の提案・監査報告：鎮目庶務理事より2016年度決算案が提示され、同案に関して、事務委託費の値上げにより黒字が減少したが、大会開催校からの寄付等を通じて総合的に黒字が達成されたことなどが説明された。引き続き牧里毎治監事と要田洋江監事より、同案の監査報告が示され、承認された。

6. 2017年度活動方針の提案：鎮目庶務理事より「2017年度活動方針案」が提示され、承認された。

7. 2017年度予算の提案：鎮目庶務理事より2017年度予算案が提示され、2016年度とほぼ同規模の予算案であるが、今後、事務委託先の異動に伴い、事務委託費の増加が見込まれることなどに関して説明がなされ、同案が承認された。

8. 学会事務委託先の変更について：鎮目庶務理事より、現在の大学生協学会支援センターの業務停止にともない、委託先を毎日学術フォーラムに変更した旨の説明がなされた。

9. 選挙管理委員会報告：神山英紀委員長により選挙結果について報告があった。理事外会員2名と理事2名の4名によって選挙管理委員会が構成され(神山会員、藤間会員、須田理事、稲葉理事)、厳正な開票作業の結果、以下10名を当選とした(50音順：安立清史、阿部彩、上野加代子、上村泰裕、菊池いづみ、鎮目真人、下夷美幸、田淵六郎、平岡公一、藤村正之)。

10. 新役員構成の提案：鎮目庶務理事より新役員について提案がなされ、承認された。また、新理事(選出理事・推薦理事)と役割分担について報告され、委員会構成案について報告がなされた。藤村正之会長による挨拶が行われた。

11. 第4回福祉社会学会賞表彰：山田昌弘学会賞選考委員長より以下が報告された。(1)第4回福祉社会学会賞の選考を行い、会員及び選考委員から推薦のあった学術賞と奨励賞の候補について審査を行った結果、学術賞1件、奨励賞2件を受賞作とすることを決定した。(2)対象は以下の通りである。学術賞：森川美絵『介護はいかにして「労働」となったのか—制度としての承認と評価のメカニズム—』ミネルヴァ書房、2015。奨励賞：著書、濱西栄司『トゥレーヌ社会学と新しい社会運動理論』新泉社、2016。奨励賞：論文、税所真也「「成年後見の社会化」からみるケアの社会化—士業専門職化が及ぼす家族への影響」『家族社会学研究』28-2、2016。(3)藤村会長より受賞者に学術賞・奨励賞の授与が行われた。

12. 第16回大会開催校の提案：鎮目庶務理事より、2018年大会を中京大学豊田キャンパスで開催することが提案され、承認された。開催校の亀山理事と大岡会員より挨拶があった。

その後、鎮目庶務理事が閉会を告げ、第15回大会総会はつつがなく終了しました。

■2017年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これからも、福祉(welfare, well-being)や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。

2. 第15回大会を、2017年5月に日本社会事業大学で開催し、2018年度開催の第16回大会についても、その準備を進めていきます。

3. 機関誌『福祉社会学研究』の第15号の刊行に向けて、編集作業を進めていきます。

4. 大会に加えて、多様な研究テーマに基づく研究活動に積極的に取り組みます。

5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. 機関誌の J-STAGE への掲載など、研究成果の公開や対外的発信にいっそうつとめていきます。
7. Web や Email を活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

■第8期福祉社会学会役員等一覧

役職者構成

会長 藤村正之（上智大学）
副会長 平岡公一（お茶の水女子大学）
庶務理事 上村泰裕（名古屋大学）
研究委員長 上野加代子（徳島大学）
編集委員長 下夷美幸（東北大学）
理事（50音順） 安立清史（九州大学） 阿部彩（首都大学東京） 天田城介（中央大学） 亀山俊朗（中京大学）
菊池いづみ（日本社会事業大学） 金成垣（明治学院大学） 鎮目真人（立命館大学）
田淵六郎（上智大学） 寺田貴美代（新潟医療福祉大学） 宮垣元（慶應義塾大学）

監査 小沢修司（京都府立大学） 神原文子（神戸学院大学）
顧問 副田義也（筑波大学名誉教授） 庄司洋子（立教大学名誉教授） 武川正吾（東京大学）

研究委員会

委員長 上野加代子 副委員長 阿部彩
委員 天田城介 岡部耕典（早稲田大学） 檜田美雄（神戸市看護大学） 亀山俊朗
室田信一（首都大学東京）

編集委員会

委員長 下夷美幸 副委員長 寺田貴美代
委員 堅田香緒里（法政大学） 株本千鶴（椋山女学園大学） 神山英紀（帝京大学） 金成垣
富江直子（茨城大学） 宮垣元

社会学系コンソーシアム・評議員 安立清史、金子雅彦（防衛医科大学校）
社会政策関連学会協議会・協議員 菊池いづみ、天田城介
参与 平岡公一

学会賞選考委員会

委員長 田淵六郎

事務局

事務局長 上村泰裕
財務委員 鎮目真人

■会長挨拶

会長就任にあたって

藤村正之（上智大学）

2期目の会長職を拝命することになりました。前期は、学会誌発行元や学会事務委託先の変更、研究委員会と大会開催校の作業関係の再編など大きな課題がありましたが、各理事の皆さまの奮闘により、無事にそ

これらの課題をソフトランディングさせ、期の会務を終えることができました。再びの会長職で、私自身の足元はおぼつかないところですが、幸いにも、選挙ならびに推薦で選ばれた理事の皆さまには中堅以上の多士済々な有力な方々が揃いましたので、つつがない学会運営に携われるものと思います。

福祉社会学会も来年で15年を迎えます。やや不思議なことに会員数は初期のころと大幅に変わることなく、400人台後半となっています。入る方、出る方の均衡が取れているということになりますが、おおまかな世代交代も進みつつあり、会務の安定化をはかるような体制整備が必要なところかと見えています。会員の皆さまの声をお聞きしつつ、社会背景や学問環境の変化もふまえた対応が求められる状況にもあろうかと思えます。

私たちは数えて8期目の理事会となります。前回はラッキーセブン内閣と申し上げましたが、今回は、八の末広がり内閣となるか、七転び八起き内閣となるか、会員の皆さまのご理解・ご協力をいただきながら、2年間の任務にあたってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

■第4回福祉社会学会賞 選考結果

(1) 選考経過

第4回目である今回の選考は、2015年1月から2016年12月までの2年間に刊行された研究業績が審査対象となった。学術賞の受賞資格者はすべての会員、受賞対象は単著の著書であり、奨励賞の受賞資格者は修士課程入学後13年以内もしくは博士課程入学後11年以内の会員、受賞対象は単著の著書あるいは本学会誌または他の学会誌等に掲載された査読付の論文である。

2017年1月に推薦の受付を開始し、推薦方法などをニューズレターで告知するとともに学会HPへアップし、学会HP上で推薦手続きができるようにした。2017年1月から2月までを受付期間として、会員および選考委員から推薦を受付けた結果、奨励論文賞 2件、奨励著書賞 4件、学会賞 3件（学会賞、奨励著書賞重複）の推薦があった。

これらの候補作について5人の選考委員がすべての候補作を審査したうえで、2017年4月1日に選考委員会を開催し審議した結果、以下のとおり、学術賞1件、奨励賞2件を受賞作とすることを決定した。

(2) 学術賞

・森川美絵 『介護はいかにして「労働」となったのか—制度としての承認と評価のメカニズム—』 ミネルヴァ書房、2015年

(選考理由)

本書が描かんとしたのは、介護保険制度が介護保険制度以前の多元的供給システムのもとでの住民参加型組織における主婦層のパートタイム労働を制度の賃金モデルとしながら、それまでの地域に根ざしたキメ細かな当事者を支えるものとは異なる標準化された限定的サービスとして介護を普遍化する社会装置であったこと、それゆえ介護保険制度の再編段階では「地域包括ケアモデル」が叫ばれながらも、結局、上記の「介護の社会化モデル」を引き継ぎ、この標準化された限定的サービスはより一層強化されてきているという歴史診断である。それゆえにこの問題を解決するためには低賃金の介護労働の社会的評価を解決すると同時に、地域に根ざした当事者を支えるキメ細かな介護労働とするような環境整備や制度変更が必要になると提言する。このような現在の介護保険制度における問題がいかなる歴史的な脈において生まれてきたのかを社会的に解明したことに本書の意義がある。

(3) 奨励賞

・濱西栄司 『トゥレーヌ社会学と新しい社会運動理論』 新泉社

(選考理由)

トゥレーヌ社会学を丹念に読み解き、参照することを通じて、資源動員論でも「新しい社会運動」論でも

ない、グローバル運動として今日の運動を解明した意欲作である。特に、今日におけるグローバル化を背景にしたサミット・プロテストに代表されるグローバル運動は、かつてのレジーム論では解明できないような多種多様な要素が複雑に絡み合いながらも一つの集合的現象として成り立つものであり、その運動のダイナミズムを社会的に明らかにした点に本書の特徴がある。しかしながら、本書ではやはり今日におけるグローバル運動を解明する社会運動理論への刷新に力点が置かれているがために、結論を踏まえた考察においても今日における福祉社会学的な含意が必ずしも積極的に提示されたとは言い難いものであり、今後の著者の大きな課題となっている。

・税所真也 「成年後見の社会化」からみるケアの社会化—士業専門職化が及ぼす家族への影響『家族社会学研究』28-2

(選考理由)

介護保険制度の創出とともに、財産管理リスクが出現し、結果として士業専門職化が起こり、家族の負担増が起きているプロセスが、統計、ヒアリングというハイブリッドな調査によって、コンパクトに記述されている。「介護保険制度」創設による介護の社会化の実態や制度分析に関しては多数の業績があるが、ケアではなく、お金の注目した研究は少ない。その中で、士業専門化を手がかりにこの問題に切り込んだ貴重な文献である。ただ、なぜ、専門家の中でも社会福祉士ではなく、弁護士や司法書士など士業が選ばれたかという点に関して、更なる研究の進展が期待される。

■第16回大会のお知らせ

福祉社会学会第16回大会は、2018年に中京大学豊田キャンパスで開催されることになりました。詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

■『福祉社会学研究』第14号刊行と第15号の投稿募集 第15号の投稿締切は9月4日必着です

●【第14号の刊行】 『福祉社会学研究』第14号(Journal of Welfare Sociology, No.14)が刊行されました (ISSN 1349-3337 ISBN 978-4-7620-2724-6 C3036)。目次は以下のとおりです。

■会長講演

福祉社会学の自己分析……………藤村正之

■特集論文 領域横断性——創造的活動との接点から福祉社会を考える…

特集「領域横断性——創造的活動との接点から福祉社会を考える」に寄せて……………井口高志・森川美絵
農業でも、福祉でもなく—<郊外>となった場所を「く分解する」……………猪瀬浩平

福祉領域に再参入する宗教—ホームレス支援の事例を通じた「宗教の社会貢献」の検討……………白波瀬達也

■公募特集論文 シティズンシップとその外部——複数の排除、複数の包摂

なぜ「シティズンシップとその外部」を問うのか —特集によせて……………亀山俊朗

何が移民の貧困をもたらすのか —EU諸国における移民の福祉の比較分析……………寺田晋

1918年米騒動における二つの「生存権」 —モラル・エコノミーとシティズンシップ……………富江 直子

不登校問題をめぐる排除/包摂の重層性 —「フリースクール」の法制度化とシティズンシップの再編

……………森田次朗

■自由論文

介護労働における早期離職率の規定要因 —「1年目の壁」はいかにして超えられるか……………大久保将貴

現代高齢者福祉における「希望」の位置づけ — 「ニーズ」をめぐる政策論および実践論との関係から…
……………佐藤惟

■書評

金成垣『福祉国家の日韓比較—「後発国」における雇用保障・社会保障』……………鎮目真人
矢野亮『しかし、誰が、どのように、分配してきたのか—同和政策・地域有力者・都市大阪』……………
……………坂田勝彦
稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人編『日本の家族 1999-2009—全国家族調査[NFRJ]による計量
社会学』……………久保田裕之
小磯明『高齢者医療と介護看護—住まいと地域ケア』……………平岡公一

■福祉社会学会会員からの書籍情報

●【『福祉社会学研究』第15号の原稿募集について】

下記要領で、『福祉社会学研究』第15号の自由投稿論文を募集します。

1. 投稿資格： 本会会員に限ります。2017年度の加入者については、2017年の大会時までに入会済みであることが条件となります。
2. 論文の種類： 自由投稿論文
福祉社会学研究の学術論文とします。
3. 掲載の可否： レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します
4. 締切： 2017年9月4日（月曜日）（23時59分までに必着）
5. 論文の分量： 20,000字以内とします。スペースは字数に含めません。
6. 投稿規程、執筆要領：
 - ・投稿規程、執筆要領は『福祉社会学研究』最新号および学会ウェブサイトでかならず確認してください（執筆要領は2017年5月1日に改正されています）。論文の分量が超過するなど、執筆要項が守られていない場合には、投稿論文を受け付けません。
 - ・投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿の際は、ワードの文書ファイルの形式で、メールにて下記編集委員会事務局までお送りください。パスワードを付けた場合には別のメールにてパスワードをお知らせください。紙媒体の提出は一切必要ありません。
 - ・投稿論文を添付するメールの件名は「自由投稿論文送付の件」としてください。
8. 提出先、問い合わせ先：

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005
椋山女学園大学人間関係学部 人間関係学科
株本千鶴研究室 福祉社会学会 編集委員会事務局（投稿論文担当）
（メールアドレス jws-henshu★ml. tohoku. ac. jp ←★を@に変えてください）
9. 受領通知： 投稿受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、上記編集委員会事務局までお問い合わせください。

■理事会報告

●2017年度 第1回理事会 議事録（前掲総会報告と重複する部分を一部省略）

日時：2017年5月17日 11時～13時

場所：日本社会事業大学・研2024

出席者：安立、稲葉、上野、亀山、上村、菊池、金、鎮目、下夷、白波瀬、須田、高野、田淵、

寺田、平岡、藤村、三重野、山田

議事に先立って藤村野会長の挨拶と新旧理事の自己紹介が行われた。

●報告事項・審議事項

1. 第15回大会運営について：実行委員長の菊池理事より開催・運営に関して報告があった。
2. 選挙管理委員会報告／新役員の構成について：鎮目庶務理事により理事当選者の報告がなされ、新理事及び役割分担案について原案通り承認され、総会に提案することとなった。また、委員会構成について提案され、承認された。
3. 研究委員会報告：稲葉委員長より、引継事項を含めて報告があった。
4. 編集委員会報告：高野委員長より、引継事項を含めて報告があった。
5. 学会賞選考委員会報告：山田理事より、第4回学会賞選考の経緯と結果について報告があった。
6. 社会学系コンソーシアム報告：須田理事より報告があった。
7. 社会政策関連学会協議会報告：三重野理事より報告があった。
8. 2016年度決算案の承認・監査結果について：鎮目庶務理事より決算案と監査結果の説明があり、審議の結果、決算案を承認した。
9. 2017年度予算案の承認について：鎮目庶務理事より2017年度予算案の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
10. 2017年度活動方針案について：鎮目庶務理事より原案が提案され、協議の上、総会に諮ることを承認した。
11. 事務委託先の変更について：鎮目庶務理事より事務委託先を大学生協学会支援センターから毎日学術フォーラムに変更した経緯について説明がなされた。
12. 理事会選挙と理事定数について：選挙管理委員の須田理事から理事の規定に関して問題提起がなされ、次期の総会に向けて、検討することとなった。
13. 次回第16回大会開催について：第16回大会は2018年に中京大学豊田キャンパスにて開催することを承認した。
14. 新規入会者の承認、退会希望者の確認、会員状況報告：高野庶務理事より会勢報告があり、一般会員は5月28日現在で475名であること等が報告された。引き続き、新規入会者21名の承認と退会者の確認が行われた。
15. 総会の運営について：鎮目庶務理事より総会の議事次第案が提案され、審議の結果これを承認した。
16. 次回理事会（2017年度第2回）を2017年12月16日（土）午後から上智大学で開催することを決定した。

■新入会員紹介

（Web版では省略）

【発行・編集】 福祉社会学会事務局